

2024 年 1 月 19 日

2023 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
課題研究

助産師の分娩時異常出血の予測や早期対応能力の向上に係る要因の探索：

助産師へのインタビュー調査

Exploring Factors Related to Midwives' Ability to Predict and Respond Early to
Abnormal Hemorrhage During Childbirth: Interviews with Midwives

22MW003

板垣南海

要旨

目的：本研究では、分娩時異常出血のシミュレーショントレーニングの受講歴のある臨床経験5年以上の助産師に対するインタビュー調査の結果から、分娩時異常出血の予測と対応行動の実際を知り、分娩時異常出血に対する助産師の予測や対応能力を向上させる要因を探索することにより、分娩時異常出血の対応能力向上を目指す教育内容を考察することを目的とした。

方法：本研究は半構造化面接法を用いた質的記述的研究である。分娩時異常出血のシミュレーショントレーニング（主催団体や院内外の主催を問わない）受講歴がある臨床経験5年以上の助産師を対象とし、Zoomにてインタビューを実施した。

結果：研究責任者が実習経験のある甲信越の地域周産期母子医療センターにて勤務している分娩時異常出血のシミュレーショントレーニング（主催団体や院内外の主催を問わない）受講歴がある臨床経験5年以上の助産師3名に対し、平均39.05分のインタビューを実施し、89のコードと35のサブカテゴリーを抽出し、9のカテゴリーが生成された。第一に、助産師は【妊娠から分娩までの出血リスク判断と出血予防の意識】を持って産婦と関わることで分娩時異常出血を予測し、【環境整備や処置の実施など助産師主体で出血対応に臨むための準備】を行うことで、助産師主体の分娩時異常出血対応を実施していた。早期対応能力の向上を目指し、【出血対応のプロトコルに沿って助産師が主体的に状況判断や初期対応する組織づくり】、【チームでの出血対応を可能にする学習機会の充実】などを組織で取り組み、助産師個人では、【平時のシミュレーションを臨床に活かすための取り組み】や【組織全体で後輩育成を実践】し、組織及び個人の分娩時異常出血対応行動の促進に繋がっていた。また、【助産師主体での出血対応を可能にする医師との連携】が母体の安全を守る上で不可欠であった。分娩時異常出血が生じた際の産婦や家族への支援として、【産婦の不安解消のための支援】や【緊急時の動線確保と家族への状況説明】を実施し、産婦が置き去りにならないよう配慮することも重要であった。

結論：助産師の分娩時異常出血の予測や対応能力向上の背景には、「助産師個人の学びと組織の取り組み」があり、シミュレーショントレーニングで得た学びの活用法について明らかとなった。また、助産師の分娩時異常出血の対応能力向上を目指す教育内容として、分娩時異常出血対応に関するシミュレーションに加えて、出血の予測に関する学びや産婦と家族への状況説明など倫理的実践能力の向上を目指す内容も含めた教育の重要性が示唆された。

